

平成31年度 居宅介護支援事業所拠点事業報告

《石見さくら会居宅介護支援事業所事業報告》

1. 事業総括

介護保険法の理念に基づき要支援状態或いは要介護状態にある高齢者自らの意思を尊重し、その心身の状態に応じた能力を活かし、住み慣れたご自宅等でできるだけ自立したその方らしい生活を営むことができると共に、状態の悪化を予防できるよう医療・福祉の関係機関又は、地域の方々と連携し、総合的に支援を行いました。

(1) サービス事業

- ① 要支援状態或いは要介護状態にある高齢者が可能な限り自宅に於いて、その心身の状態に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し、支援を行いました。
- ② 要支援状態或いは要介護状態にある高齢者の選択により、心身の状況、その置かれている環境等に応じ、適切な保健医療サービス及び福祉サービス、施設サービス等、多様な事業所との連携により、総合的かつ効果的に介護計画が提供できるよう心掛けました。
- ③ 要支援状態或いは要介護状態にある高齢者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者に提供されるサービス等が特定の種類又は、特定のサービス事業者に偏ることがないよう公平、中立の立場を心がけました。
- ④ 要支援状態或いは要介護状態にある高齢者の要介護認定等に関する申請に対し、本人等の意思を踏まえ必要な支援及び協力を行いました。
- ⑤ 保険者から介護認定調査の委託を受けた場合、公平な調査を行うと共に所要の知識を深める為に、研鑽に努めました。

(2) 人財育成事業

介護支援専門員としての資質向上、専門的知識、技術向上を図る為、ケース検討を通し、日々研鑽に努めました。

(3) 施設整備事業

Windows 7がサポート終了となったため、パソコン2台を更新しました。

(4) その他

特になし。

平成31年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

計画上の事業	実施した内容・成果等
ケアマネジメントの充実	<ul style="list-style-type: none">・ 様々な研修会に参加し、ケアプラン作成に必要となる視点について学びを深めました。・ 定期だけでなく必要に応じて訪問を行い、ご利用者様及びそのご家族様の生活上の課題解決の為に迅速・丁寧・適切な対応を心がけ、信頼関係を構築・深めるよう努めました。・ アセスメント、担当者会議、モニタリング、再アセスメントのサイクルを的確に行い、自立支援の理念に沿った介護計画の作成に努めました。
関係者との連携強化	<ul style="list-style-type: none">・ サービス担当者会議やモニタリングを活用し、他職種との連携、協働の強化に努めました。・ 独居や認知症高齢者、重度の要介護者に対し、地域での見守り支援等協力体制の構築を図る為に地域ケア会議に参加しました。・ 担当する利用者様の状況について邑南町地域包括支援センターや邑智病院からの求めがあった場合だけでなく、利用者様やご家族様からの同意の下、日頃より情報を挙げることにより、情報共有を図ると共に連携強化を行いました。
サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none">・ 介護サービス情報公表や利用者アンケート、自己評価を実施し、「更にサービスを良くするには」の視点で事業所内に於いて話し合いの場を持ちました。・ 平成31年度から開始した居宅介護支援事業所のおたより「いっ福しませんか」は、「脳トレが難しい」と言われる方がおられる反面、「たのしみ」と言われる方も増えました。
給付管理	<ul style="list-style-type: none">・ 介護保険法に関する情報収集、運営基準等の再確認、必要な書類の整備について定期的にチェックを行いました。・ 他事業所への影響を考慮し、返戻等発生しないよう給付管理を適切に行うよう努めました。・ 加算項目を的確に算定し、過誤等が無いよう支援費請求事務を行いました。

計画外の事業の実施については、特にありません。

【人財育成事業】

① 研修

《事業所内研修》

計画上の研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果
個別研修			
業務を通じてのOJT	全員		人事考課制度における目標面接シートに基づいて実施しました。

《事業所外研修 専門研修》

計画上の研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果
主任介護支援専門員研修	受講資格を満たす職員	1名	管理者の資格要件となる主任介護支援専門員の資格を取得しました。
認定調査員現任研修	介護支援専門員	2名	要介護認定調査記載に係る事項について再確認をしました。
主任介護支援専門員フォローアップ研修	介護支援専門員	2名	主任介護支援専門員に必要となる視点について学びを深めました。
高齢者の自立支援・介護予防推進研修	介護支援専門員	2名	自立支援及び介護予防に係る視点について学びケアプランに反映させるよう努めました。
高次脳障がい者支援研修	介護支援専門員	2名	脳に機能障害を負った方に対する支援の在り方について学びケアプランに反映させ、利用者やその家族に対する提案が行えるよう努めました。
摂食・嚥下講座	介護支援専門員	2名	摂食機能と嚥下について学びを深め、ご自宅での介護に対する助言となるよう努めました。
リスクマネジメント研修Ⅰ	管理者	1名	多様なリスクに関する対応の在り方について学びを深めました。
福祉サービス苦情解決研修	管理者	1名	苦情解決の在り方について学びを深めました。
事例検討会（邑南町）	介護支援専門員	2名	町内の他事業所の介護支援専門員と共に事例を通して議論することにより、多様な考え方を学びました。
在宅医療連携検討会（邑智病院）	介護支援専門員	2名	医療・福祉の多職種が集まり事例を通して支援の在り方が検討できました。

計画外の研修の実施については、特にありません。

② その他の取組事項

特にありません。

【施設整備事業】

計画上の施設整備等	実施した内容等
パソコンの更新	Windows 7 がサポート終了となったため、パソコン 2 台を更新しました。

計画外の施設整備の実施については、特にありません。

2. 利用者状況の総括

平成31年度の新規登録者数は15名でしたが、終了者が24名であり、9名の減少となっています。又、既に登録はされているものの、住宅改修が主な目的であった為、介護保険サービスに繋がっていない方や、入院等によりサービスが中断している方もおられます。入院中の方は、心身の状態変化に対する対応策を検討する必要があることから、医療との連携が必要になり、再々、様子を確認する必要がありますが、退院され、在宅サービスに繋がらなければ、実績とならないことが、制度上の課題かと思えます。

平成30年度の実績と比較すると総合事業では年間延べ31名、要支援では延べ18名と僅かながら増となっていますが、要介護状態の方は、延べ3名減少しています。このことは、地域包括支援センターからの委託が多いことを示していると考えます。

【利用率の状況表】

(単位；人、%)

	定員	計 画		実 績		備 考
		人数	利用率	人数	利用率	
総合事業	96	96	100.0	91	94.8	H30年度 60名
要支援	156	156	100.0	173	110.9	155名
要介護	936	780	83.3	437	46.7	440名
計	1,188	1,032	86.9	701	59.0	

【利用者構成の状況表】

(単位；人、%)

構 成 (介護度別)	計 画		実 績		備 考
	人数	構成割合	人数	構成割合	
総合事業	96	9.3	91	13.0	
要支援1・2	156	15.1	173	24.7	
要介護1・2	564	54.7	324	46.2	
要介護3～5	216	20.9	113	16.1	
計	1,032	100.0	701	100.0	

3. 要員（人員）体制の総括

年度当初より計画人員の体制で実施することができました。

【要員状況表】

(単位；人、%)

職 種	計 画		実 績		
	人員	常勤換算数	人数	常勤換算数	計画に対する 充足率
管理者 兼務) 介護支援専門員	1	1.0	1	1.0	100.0
介護支援専門員	1	1.0	1	1.0	100.0
計	2	2.0	2	2.0	100.0

4. 苦情解決（要望含む）について

平成31年度において、特に苦情や要望はありませんでした。1月から2月末に利用者アンケートを無記名で実施しましたが、対応を要する特段の記述は無く、90%前後の方に好印象を持って頂いていることが伺えました。

以上